

令和 6 年度朝来市立朝来中学校読書活動推進事業取組のまとめ

1 研究主題

読書の楽しさを感じ、広い視野をもって深く考える力を育む読書活動
～ あさご森の図書館を中核とした校区小中学校・保護者・地域との連携 ～

2 研究主題の設定理由

読書は生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要な活動である。本校の生徒は過去数年の全国学力・学習状況調査の結果から、場面の展開や登場人物の心情変化など、描写を基に捉える「読むこと（読解力）」に課題がある。また、学校以外で読書を全くしない生徒が半数を占め、読書嫌いの生徒が4割程度いる。さらに、スマートフォン等によるSNSの利用時間が年々増加している。そこで、読書の楽しさを感じる読書活動を推進することで、学校以外での読書時間が増え、同時にスマートフォン等の利用時間が減少すると考えられる。また、読書を通して、視野が広がり、深く考え、物事にじっくりと取り組む力が養われることを期待し、研究主題を設定した。

校区にある「あさご森の図書館」と連携をすることで、図書館利用の増加のみならず、読書活動の有効な手段などについて専門的な立場から指導助言を頂き、校区小学校や保護者にも読書活動についての啓発を行い、共に取り組むことで、より一層読書活動の推進が図れると考えられる。

3 令和 6 年度の取組の内容

5月14日（金）15:30～ あさご森の図書館

令和 5.6 年度読書活動推進事業 第 1 回担当者会

<参加者>

【朝来中学校】 垣尾浩子 片岡亜華梨

【中川小学校】 青木朋子 【山口小学校】 高井聡子

【あさご森の図書館】 村橋紀子

○令和 5 年度取組報告について

○令和 6 年度実施計画の立案について

○今年度の取り組みについて (1)選定図書のポップ作成

(2)絵本の読み聞かせ

(3)研究授業【ビブリオバトル】

(4)あさご森の図書館にておすすめ本の掲示

(5)読書記録の検討

○各校の読書実態や昨年度の取り組みを受けて

5月中旬～ 生徒玄関

○朝来中学校教職員のおすすめ本をディスプレイ表示（昨年度から継続中）

6月11日（火）13：30～佐用町立三日月中学校

令和5、6年度読書活動推進事業 第3回連絡協議会

<参加者>

【朝来中学校】 片岡亜華梨

○佐用町立三日月中学校の取り組み発表

○姫路大学 長谷浩也教授による講義

○本事業のまとめについてと今後の動きについての確認



7月5日（金） 6校時 あさご森の図書館

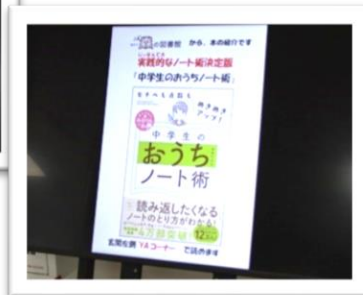
○1年生：小学生に贈るポップ作成のための本選定



7月16日（月）～ 生徒玄関

○「読書感想文選定図書」の紹介、読書感想文におすすめしたい本のコーナー設置

○トライやる・ウィーク中、あさご森の図書館で活動していた生徒のおすすめ本の提示



8月ごろ～

○読書記録『ブクログ』もしくは『Yomumo』の検討

9月11日（水）～13日（金）

○中間読書アンケート実施【Forms】

9月16日（月）～

○アンケート集約



9月下旬 国語・美術の授業

○1年生：小学校へ届けるポップの作成

(1)国語の授業内で書き方の指導

(2)美術の授業で絵やイラスト、文字やデザインを作成



9月26日(木) 6時間目

○全校集会にて各学年代表によるおすすめ本紹介①



10月1日(火) 15:00～ 朝来中学校 図書室

令和5.6年度読書活動推進事業 第2回担当者会

<参加者>

【朝来中学校】 垣尾浩子 片岡亜華梨

【中川小学校】 青木朋子 【山口小学校】 高井聡子

【あさご森の図書館】 村橋紀子

○小中・あさご森の図書館連携取組「一つ大人になる君へ」について

○読書アプリについて

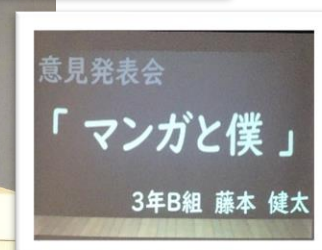
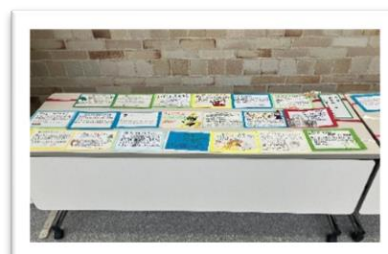
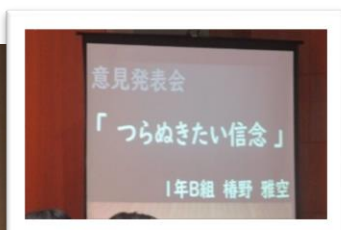
○第3回アンケートの結果分析

○令和5,6年度読書活動推進事業 まとめアンケートの実施日時と実施内容

10月3日(木) 朝来中学校 文化祭 意見発表

○1年B組 椿野雅空さんが「つらぬきたい信念」、3年B組 藤本健太さんが「マンガと僕」という内容で意見発表

○作成したポップの展示



10月4日（金）、8日（火）

○読書アプリ「Yomumo」の導入



（月に一度、Yomumo デーを設定し、朝学活もしくは終学活にて、読み終わった本の取り込みを行った。）

10月10日（木）6時間目 朝来中学校 図書室

○3年生読み聞かせ練習として、あさご森の図書館の村橋さんをお招きし、読み聞かせの指導を受けた。



読み聞かせ訪問時に使用するポップを作成した様子



10月11日（金）6時間目

○図書委員会にて、小中・あさご森の図書館連携取り組み「一つ大人になる君へ」のポップ作成の説明

10月25日（金）4時間目

○全校集会にて各学年代表によるおすすめ本紹介②

10月30日（金）6時間目

○第2回 3年生読み聞かせ練習

○代表班による発表など



10 月末

○図書委員が作成したポップの回収（Teams）

○小中・あさご森の図書館連携取組「一つ大人になる君へ」の保護者向けの依頼を中川小学校、山口小学校、あさご森の図書館へ配付。

11 月 5 日（火）山口小学校・中川小学校

○中学 3 年生が各小学校を訪問し、小学校 1、2 年生に読み聞かせ活動実施。

○読み聞かせ後に（中学校）1 年生が作成したポップを手渡し。



山口小学校

中川小学校



11 月 13 日（水）、14 日（木）

○2 年生による、ビブリオバトル予選会



11 月 15 日（金）18 日（月）

○研究授業：ビブリオバトル本選



11月18日（月）

○読書活動推進事業学校訪問

<参加者>

【兵庫県教育委員会事務局義務教育課】	茶谷剛安副課長	前田隆吾指導主事
【但馬教育事務所教育振興課】	太田利隆副所長	松元善徳主任指導主事
【朝来市教育委員会学校教育課】	浦野裕之指導係長	
【朝来市立朝来中学校】	小西浩司校長	垣尾浩子教頭 片岡亜華梨教諭

11月17日（月）～

○図書委員プロジェクト『読書の木』の実施
一定の期間を設け、その間に読めた本の題名と
作者名を掲示。



12月2日（月）～

○小中・あさごの森図書館連携企画 「一つ大人になる君へ」の実施

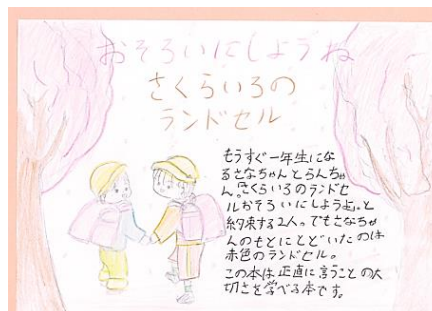
- ・各学校で「おすすめ本」のポップやパワーポイントを作成し、本を通じてメッセージを送り、本への関心を高められるような取り組みをした。
- ・保護者や地域の方へもメッセージカードを依頼し、本にちなんだメッセージを収集した。



（中学生の作品）



（保護者からのメッセージカード）



（小学生の作品）

1月8日(水) 朝来市立朝来中学校 図書室

令和5.6年度読書活動推進事業 第3回担当者会

<参加者>

【朝来中学校】 垣尾浩子 片岡亜華梨

【中川小学校】 青木朋子 【山口小学校】 高井聡子

【あさご森の図書館】 村橋紀子

○アンケート内容の確認

1月10日(金)

図書委員会による、おすすめ本紹介ポスターの作成

生徒及び保護者アンケート依頼文配布

1月14日(火)～1月24日(金)

第3回読書アンケート(児童生徒)をFormsで実施

1月下旬

○アンケート集約

2月4日(火)

令和5.6年度読書活動推進事業 第4回担当者会

<参加者>

【朝来中学校】 垣尾浩子 片岡亜華梨

【中川小学校】 青木朋子 【山口小学校】 高井聡子

【あさご森の図書館】 村橋紀子

○アンケート結果の分析

○2年間の活動のまとめ

2月10日(月)

図書委員会による、卒業までに読んでもらいたい本の紹介コーナーの設置

2月18日(火)～3月

「あさご森の図書館」にて『一つ大人になる君へ』企画で作成したポップやパワーポイントの展示

3月

○PTA広報、HPなどを活用して事業報告を公開

4 成果と課題

(1) 成果

2年間に渡って本事業を続けたことで、学校の中に「読書」という言葉があふれることになった。校内のあちこちに「本の紹介」の掲示物があり、思わず歩くのがゆっくりになる生徒や、朝早く登校して一人でじっくり本を読む生徒、誰かに本を紹介するために一度読んだ本をもう一度読み直す生徒など、今まで見られなかった生徒の姿に出会った。部活動のない水曜日やテスト前期間などは、あさご森の図書館に足を運ぶ生徒が増えたと話してくださった図書館職員さんの笑顔とその言葉も、この事業の成果の一つではないかと考える。

本年度も9月と1月にアンケートを2回実施した。令和5年度に実施したアンケートと比較すると、「読書が好き」と答える児童生徒数は75%を占め、1回目のアンケート結果と大きな変化はなかった。ただし、読書タイムなどで学級文庫を読んでいる児童生徒が減り、「自分で読みたい本を持ってくる」と答える児童生徒が増えた。これは、各小中学校で取り組んでいる『おすすめ本の紹介』や『ビブリオバトル』で、児童生徒たちの中で本の薦めあいが行われ、本を自ら準備しようとする人数が増えたからではないだろうか。さまざまな本に興味を抱くようになったという意味では、本事業は非常に良い機会であった。また、あさご森の図書館が作成している本の紹介リーフレット『もう読んだ?』の認知度も、1回目のアンケートでは6割未満だったところが、今回は7割を超えた。意識的に目を通す児童生徒、保護者が増えたことがうかがえる。一番の成果と思われることは、この2年間ポップを読んだり、人に勧められたりして、誰かが薦めてくれた本を実際に手に取り、読んだという児童生徒が増えたことである。児童生徒同士、教職員と児童生徒、各家庭内で少なからず『本』に関する話題が出ていると推測できる。このことは教職員のアンケート結果からもうかがえる。

中学校では昨年度、本事業でビブリオバトルを実践した2年生が3年生になり、当時、先輩がおこなっていた「小学生への読み聞かせ訪問」を今度は自分たちがおこなうことになり、自分たちが経験したビブリオバトルを今度は後輩たちが挑戦することになった。そういった「読書の空気」の継承のようなものが校内に漂い、より良いものにしたいと読み聞かせ指導を受けたが、その楽しそうな練習風景は大変印象的であった。予定していなかった本の紹介ポスターを作成し、「もっと小学生たちを喜ばせたい」という積極的な気持ちを見せてくれた。ビブリオバトルは予選、本選を通して、生徒たちはもちろん、教科担当、学年職員が一体となって、熱気あるバトルを披露するに至った。本選に選ばれなかった生徒たちが、「自分たちの作ったパワーポイント資料を掲示して欲しい」「他の班の子、他のクラスの子がどんな本を読んでいるのか、知りたい」と声をあげ、その声に押されて貼られた掲示物を真剣に見ている横顔も印象深い。また、各小学校でも読書に関する取り組みを行っている。本を読んでもみよう、読まなくてはいと感じる児童が中学生になり、小学生に絵本を読んであげたいと思う生徒が小学校を訪れる。小学校・中学校が連携しあい、『読書の空気』を作り出せていることが、この事業の成果である。

(2) 課題

課題として考えられるのは、ここにあげた取組を継続することである。しかし、実際には読書アンケートからも浮き彫りになったのが、「読書をする時間のなさ」であり、その時間の捻出が課題である。

より一層、生徒が本に触れる機会・時間を増やすためにできることは限られているが「学校での読

書」が生徒の大切な読書機会となっているので、学校図書室の本のさらなる充実と環境整備、開館時間の工夫、読書アプリでの感想の交流の活性化が必要である。また、今年度、改装されたあさご森の図書館を、新しい気持ちで利用する生徒や保護者の増加にも期待したいところである。

「文章を読むこと」は生きていく上で必要なことを取り込むことであり、読書を通じて読解力、表現力、探求心、コミュニケーション能力など多くの力を身につけることができる。児童生徒が、生涯にわたって素晴らしい本に出会い、心豊かな人生を送ることができるよう、本事業の成果を生かしていきたい。